

<児童の実態>

- ・頼んだ仕事を進んで手伝う子が多い。
- ・学習にまじめな児童と意欲づけに支援が必要な児童がいる。
- ・学年が上がるにつれて、考えや意見を言える児童が少なくなる。

<国・県・市の学力調査の結果から>

- ・算数において学力差があり、個別の支援が必要である。
- ・長文や論述文を読む力、理由を述べたり説明したりする力を育てる必要がある。

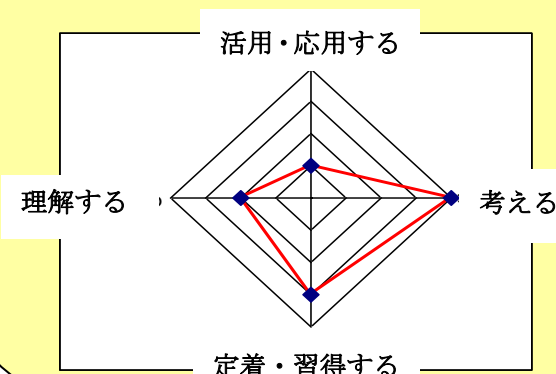
わくたま授業づくり

本時レベルでの

確かな学力をつける授業展開

課題からまとめまでの授業展開 + 適用題

- ◆ねらいにせまるための課題とまとめを設定し、課題からまとめまでの流れにおいて、**理解する**と**考える**のどちらに重点をおいた授業展開にするか。(横軸)
- ◆ねらいを確かなものにするための適用題では、**定着・習得する**と**活用・応用する**のどちらに重点をおいた問題に取り組ませるか。(縦軸)



左のチャートは「考える」と「定着・習得する」に重点をおいた例

わかりやすく くふうした授業

- ◆①～⑤の中から、具体的な手立てを2つ選び、実践する。(視点A、視点B)

視点A

②ねらいにせまる発問と補助発問の活用

- ・興味関心の喚起
- ・より思考を深める発問
- ・ゆさぶりの発問

④見通しのもたせ方の工夫

- ・既習学習の流れの揭示
- ・既習学習の想起(ふり回り)
- ・具体物、半具体物、ヒントカード等の活用

①学習素材、問題・資料提示の工夫

- ・身近な素材、経験や生活との関わり
- ・分かりやすい問題や資料提示の方法

③揭示、板書の工夫

- ・既習事項の想起
- ・解決へのヒント
- ・授業の流れがわかる

⑤考える場、伝える場での工夫

- ・ノートのかき方
- ・ワークシート
- ・発表シート
- ・授業形態
- ・発表方法

視点B

たのしく やる気かます授業

- ◆基本の力を活用した授業(視点C)、生徒指導の3つの視点を活かした授業(視点D)にする。

視点C

⑥基本の力の活用

- ・問題を読み取る力の活用
(問題から必要な情報の取り出し→関連づけ、見える化する)
- ・記述、説明する力の活用
(言葉、数、式、図、表、グラフ、構成図、要点カード等で見える化→記述や説明ができる)

⑦生徒指導の3つの視点を活かす

- ・ネームプレート
- ・もやもや、すっきりの確認
- ・ペア学習、グループ学習

視点D

⑧「勉強はかせ」をめざす

- は…発表、話す
- か…考える
- せ…積極的に
- 授業の終わりにふり返る

見る・聞く・話す力の育成

- ★ふれあい活動
赤ちゃん、おじいちゃん・おばあちゃんとのふれあい
- ★施設訪問
保育園・高齢者施設

基礎・基本の定着

- ★帯タイムの利用
- ★漢字・算数・ローマ字検定
- ★個別支援
- ★単元テスト達成度確認と指導
- ★学年ミニ検定
- ★読書の推進

活用力アップ

- ★活用力アップスキル
文章読解練習、実生活に即した問題、算数教科書「学びをいかそう」、書く活動

学びの土台づくり

- ★心の育成
・生徒指導の三つの視点で
・総合単元的な道徳学習

- ★学びの姿勢づくり
・準備と後始末 ・持ち物 ・ベル学 ・授業はじめと終わりのあいさつ
・学習静止 ・「はい」の返事 ・座り方 ・挙手の仕方 ・見る ・聞く

- ★生活・学習習慣づくり
・早寝・早起き・朝ごはん
・宿題忘れ0 ・放課後学習スクール

学力・学習の基盤づくり

